

地域を知ろう(26)

民話・伝説

No.6 彰義隊の墓

和田にあった彰義隊の墓

和田二丁目、立正佼成会大聖堂の東側に東円寺という真言宗の古刹(古寺)があります。

ここに「十三塚」と刻まれた石碑があり、これは戦後の或る時期まで、救世軍ブース病院裏の畠に立っていたものです。救世軍婦人寮などが出来る時、この碑は、付近から出土した骨と共に地元東円寺の墓地に移されたものです。

十三塚とは何であつたかは、いろいろな謎を秘めています。日本民俗学の父といわれた柳田国男も、日本中にある十三塚に注目をしている研究して来ました。伝説には二つ言われがあります。一つは、和田義盛の和田合戦に結びつけられるもので、一二三年というから七百年も昔のことです。

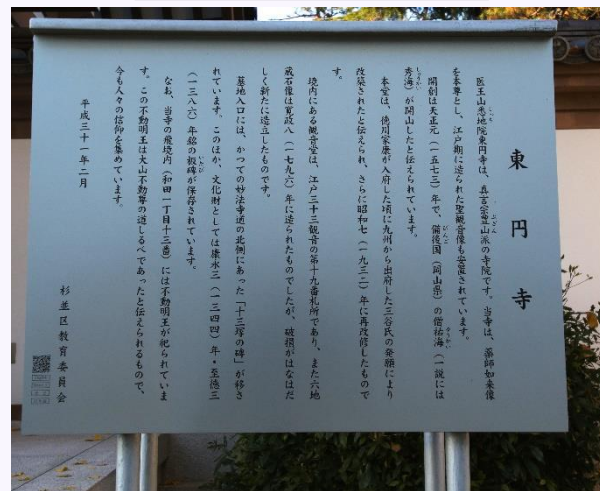
そしてもう一つ、維新で敗退した彰義隊の一部が、青

梅街道や五日市街道を通り八王子や甲州山梨方面へ逃げようとしたものの、重傷者の何人かは、この土地で息を引きとつたという事です。

または、敗北した彰義隊の一部残党が飯能の振武隊と合流すべくこの地まで来たのだが、地元民と紛争を起こして殺され、その亡きがらを葬つたとも言われています。

この十三塚といふのは、各地に広く分布し、地名にまでなつてゐる処もありなす。都内西郊だけでも四か所はあると言われ、十三塚と彰義隊士の墓はもととは別のものではあつた可能性もあつた。元々あつた十三塚の付近に彰義隊士の遺体が埋葬されたものだと思ひます。杉並区内でも、この地以外に物も散々になり、た彰義隊士の墓も、または金

杉並区教育委員会の看板



をあたえた等の伝説があります。

東円寺墓地入口にある「十三塚」

